

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	議 会 運 営 委 員 会		会 議 場 所 第 3 委 員 会 室 担 当 職 員 鈴 木 智
日 時	平 成 2 9 年 7 月 2 0 日 (木 曜 日)	開 議	午 後 1 時 3 0 分
		閉 議	午 後 2 時 4 7 分
出 席 委 員	◎ 齊 藤 ○ 平 本 奥 村 田 中 山 本 福 井 木 曾 西 口 < 湊 議 長 > < 小 島 副 議 長 >		
執 行 機 関 出 席 者			
事 務 局 出 席 者	片 岡 事 務 局 長、山 内 次 長、船 越 副 課 長、鈴 木 議 事 調 査 係 長、池 永 主 任、山 末 主 事		
傍 聴	可	市 民 1 名	報 道 関 係 者 0 名 議 員 0 名 ()

会 議 の 概 要

1 0 : 0 0

[齊 藤 委 員 長 開 議]

1 議 会 の 活 性 化 に つ い て

- (1) 検 討 項 目 に つ い て
- (2) 検 討 方 法 に つ い て

< 齊 藤 委 員 長 >

議 会 活 性 化 に つ い て は、継 続 し て 検 討 し て い く こ と を、6 月 定 例 会 中 の 議 会 運 営 委 員 会 で 決 定 し た。本 日 は、そ の 第 1 回 目 の 会 議 と な る。

[事 務 局 長 説 明]

- ・ 議 会 活 性 化 に つ い て は、議 会 基 本 条 例 の 見 直 し と 合 わ せ、第 1 6 期 議 員 に お い て、継 続 し て 検 討 い た だ く こ と と し て い る。
- ・ 議 会 基 本 条 例 の 運 用 基 準 に よ り、任 期 中 の 2 年 目 及 び 4 年 目 は、条 例 の 見 直 し を 実 施 い た だ く こ と か ら、活 性 化 の 議 論 に つ い て は、1 年 目、3 年 目 に 実 施 い た だ く こ と と な る。従 っ て、本 年 は 活 性 化 の 議 論 を い た だ く こ と と な る。
- ・ 本 日 は、ま ず は 全 項 目 に つ い て、あ ら た め て 情 報 共 有 を 図 る た め、別 紙 No. 1 の 一 覧 表 に よ り、会 派 か ら の 提 案 項 目 に つ い て、事 務 局 か ら の 説 明 の 後、会 派 か ら 補 足 説 明 を い た だ き た い。

< 齊 藤 委 員 長 >

事 務 局 よ り 順 に 説 明 い た だ き た い。

No. 1 市 議 会 モ ニ タ ー 制 の 導 入

[事 務 局 主 任 説 明]

< 福 井 委 員 >

資 料 に デ メ リ ッ ト と し て 「 既 に あ る 広 聴 機 能 と 二 重 の 取 り 組 み に な る 」 と あ る が、デ メ リ ッ ト で は な い と 思 う。実 施 す る な ら 設 計 が 必 要 と な る。

< 木 曾 委 員 >

モ ニ タ ー 制 度 を 導 入 し た 場 合、4 年 間 実 施 す る の か。

ま た、こ の 会 議 は ど の よ う に 進 め る の か。

<事務局長>

まずは、各項目について事務局が説明した後、会派から補足説明していただくこととしていく。

<齊藤委員長>

とりあえずは項目をすべてみていくこととしている。その後、継続して優先順位等を検討していくのかを議論していきたいと考えている。

<福井委員>

会派としては実施してみたいが、今期での実施は難しいと考えている。会派での優先順位を1位としているのは、今期は何をどうしてかかの設計期間と考えているからである。

<木曾委員>

その方がよい。期間や人数、また、どの部分まで出てもらうかの問題がある。団体なのか市民公募なのか色々ある。これらをつめていくということか。

<福井委員>

その通りである。

<田中委員>

内容よりもモニター制度自体を亀岡市議会として導入するかどうかを検討することが必要である。その後、制度的にどうしていくかの議論になる。

<木曾委員>

導入するかどうかは決定してはどうか。

<齊藤委員長>

まずは、項目ごとの説明を聞いて、最終的にどの項目から優先的に検討していくかを決めていきたいと考えている。

No.2 一般質問の掲載スペースの充実（議会だより）

[事務局主任 説明]

<木曾委員>

会派としてはページ数をもう少し増やして、一般質問について踏み込んだ内容まで掲載してはどうかと考えている。広報広聴会議ではどのような議論になっているのか。

<山本委員>

広報広聴会議において、現段階ではページ数については議論していない。内容をどのように充実するかということもある。どこで検討するかを決定いただければよい。

<木曾委員>

この項目については、予算的なこともあり、広報広聴会議で検討いただくこととして、議会運営委員会の活性化検討項目からは外していただきたい。

<齊藤委員長>

活性化検討項目からは外すこととする。

—全員了—

No.3 議員報酬の検討

[事務局主任 説明]

No.4 政務活動費の増額

[事務局主任 説明]

<福井委員>

前期では定数を減らしたので、それとセットで政務活動費、議員報酬を検討すべきであったと考えている。

No.5 予算・決算の審査方法の見直し

[事務局主任 説明]

<木曾委員>

予算と決算は同じ委員が審査するのがよいと考える。引き続き検討していきたい。

<山本委員>

予算と決算の審査は同一委員が行うことで、指摘要望の反映状況の確認等ができるので、予算審査を決算審査と同じような方法で行うこととして、引き続き検討していきたいと考える。

No.6 通年議会の実施

[事務局主任 説明]

<山本委員>

必要性や効果について、通年議会を導入している他市に聞いてはどうかと考えている。また、導入した後で、実施しないことにした議会もあるようなので、メリット・デメリットを聞いたうえで、引き続き検討していきたい。

<福井委員>

これまでから、亀岡市議会では通年議会について行政視察を実施しており、導入した場合に何がメリットで、何がデメリットかがわかってきている。あとは検証できれば、来年からでも実施できるのではないかと。

<木曾委員>

予算を中心とした会期と決算を中心とした会期を考えていけばよいのではないかと。そのうえでメリットがあるようであれば、通年議会も検討していけばよいのではないかと。

<山本委員>

通年議会を長々と検討するのではなく、必要性等を前向きに検討するという意味である。

No.7 政治倫理条例の見直し

[事務局主任 説明]

<山本委員>

第5条に「努めなければならない」という文言があり、その判断が難しいので、当初は検討項目としてあげていた。公明党議員団としては、議員が判断できない場合は、議会事務局等に問い合わせることもできるので、検討項目に取り上げて議論していくものではないと判断する。このためこの項目を検討項目から取り下げたい。

<齊藤委員長>

この項目は検討項目から外すこととする。

—全員了—

No.8 大学との政策連携

[事務局主任 説明]

<山本委員>

導入している自治体はまだまだ少ない。取り組めたらよいと考え、提案している。

<齊藤委員長>

どの大学と連携すると考えているのか。

<山本委員>

特にない。

No.9 インターネット中継等における手話の実施

No.10 議場システムの老朽化更新

No.11 委員会中継（配信）の拡充

No.12 会議録のタイムリーな公開

[事務局主任 説明]

<齊藤委員長>

ここで湊議長から発言がある。

<湊議長>

議会がしっかりと働くということで、議会改革を検討してきた経過がある。市民の負託に応えるためには、議会の権能を高める必要がある。専決をなくすという意味もあるが、議会の立場を明確にするためにも、通年議会を早い段階で取り入れてはどうかと考えている。通年議会の良い所、悪い所はしっかりと議論していかなければならない。事務局に資料を作成いただいているので、配布願う。

[事務局資料配布]

<齊藤委員長>

ここで事務局から通年議会について、資料に基づき説明いただきたい。

[議事調査係長 通年議会について説明]

<齊藤委員長>

検討項目の優先順位を決めたい。議長と各会派からの意見を聞いていると通年議会が1位になるのではないか。

<木曾委員>

通年議会を優先して議論すればよい。数年前に、鹿児島県阿久根市で、市長が専決を多用した事例がある。このようなことは法律も想定していなかった。議会の権能をしっかりと持つことが必要である。専決をなくしてしっかりと審査し、採決していくのが望ましいと考えている。

<福井委員>

通年議会を検討すればよい。通年議会を実施した場合、事務局としてどのような事務的な負担が増えると考えているのか。

<事務局長>

通年議会を実施するのであれば、執行部とも調整しなければならない。年度末には、市税をはじめ法律改正による条例改正が出てくるので、執行部が1年で最も忙しい時期に議会を開くとなると、かなりの負担が生じる。このあたりの調整が見えてこない部分があるので、今後検討していきたい。

<齊藤委員長>

通年議会を第1の検討課題としていくことでよいか。議長は来年実施する意向があるとされたが、準備等は間に合うのか。

<事務局長>

一旦会派に持ち帰って検討いただき、次回以降から議論いただくようにしていただきたい。この場でいつからというのは、難しい。あと2、3回以上は会派から意見を出していただきながら協議いただきたい。

<湊議長>

取り組み内容は十分に議論していただく必要があるが、目標を持ってやらなければいつまでたっても決まらない。できれば、来年の3月以降に実施したいと考えている。

<事務局長>

通年議会を実施するのであれば、どのパターンを選ぶのか等について議論いただく。

<齊藤委員長>

まずは会派で検討していただきたい。

<山本委員>

会派で何を検討すればよいのか。

<齊藤委員長>

メリット、デメリットをふまえ、パターンについて前向きに検討いただきたい。

<木曾委員>

来年から実施するのであれば、パターン1で考えていくしかないのではないのか。

<平本副委員長>

まずは、通年議会の議論を進めていくのかを決めたうえで、協議に入っていくことと考えている。優先順位を決めないといけないのではないのか。

<齊藤委員長>

通年議会を優先順位1位として議論することとしているので、よろしくお願ひしたい。優先順位2位はどの項目とするか。

<事務局長>

通年議会を優先順位1位として、これを集中的に検討するのが一つであるが、たくさん項目を議論することは難しいので、そのあたりを整理いただければと考える。

<木曾委員>

お金がかかるものは、予算の関係もあり難しいと思う。通年議会を優先順位1位として、次は予算・決算の審査方法の見直しを検討項目としてはどうか。今期中に検討できるかはわからないが、次の検討項目としてはどうかと考える。

<齊藤委員長>

通年議会を優先順位1位として前向きに取り組むこととして、今後は細部について検討していきたい。また、予算・決算の審査方法の見直しも付け加えていきたい。

<木曾委員>

検討項目の1位を通年議会、2位を予算・決算の審査方法の見直し、その次を来期になるかもしれないが、政務活動費の増額とすればよいのではないのか。

<福井委員>

No.5、6はセットだと思う。通年議会にするのであれば、一緒にモニター制度や大学との連携についても実施できるのではないのか。また、議会基本条例の議会報告会の条文は、現状に合致しているのかということ非常に疑問に思っている。広報広聴活動を行うという内容にしてはどうかという提案をしておく。

<事務局長>

参加人数も伸び悩んでおり、議会報告会のあり方は課題だと考えている。条文の改正は2年目、4年目で行い、3年目は議会活性化を検討いただければと考えている。

<木曾委員>

現状に合わせていけばどうか。

<事務局長>

あり方自体を広報広聴会議で協議いただいてはどうか。

<齊藤委員長>

広報広聴会議でしっかりと議論いただくようお願いしたい。

<奥村委員>

議員定数を削減した時に、議員報酬を連動して議論されなかった。何かを削減する時に付随して考えなければ、単独では難しいのではないか。通年議会と予算・決算審査について考えていくのであれば、議員報酬も一緒に考えていくべきではないか。

<齊藤委員長>

骨格となることをしっかりと考えて、付随するものを考えていくこととする。

2 その他

(1) 次回の日程について

<齊藤委員長>

今回は8月21日(月)10時から開催したいと考えるがどうか。

—全員了—

<木曾委員>

優先順位1位と2位が決まったので、今回は具体的な検討に入ることをふまえ、会派で協議することでよいのか。

<齊藤委員長>

その通りである。

14:47